

身近に感じる議員、野村羊子のうごきMAP



子育てフィールド



●例えば：児童館リニューアル、夏休みの居場所、待機児童

介護フィールド



●例えば：どんぐり山、ショートステイ

障がい者フィールド



●例えば：小学校に通う子どものサポート、差別解消法（一般質問）

粘り強く問題提起をし続ける

フィールドで聞いている市民の声を反映させる

主役は市民！



市民感覚で物事を見る

良いことはいい、悪いことは悪いと公平な立場で判断する

市政(二元代表制)

市長と議会はそれぞれ市民から選出される対等な2つの機関

議会(条例・予算の決定機関)

行政(市長・市の職員)

議員 27人中 市長応援会派議員 18人 その他議員 9人



●現在は市長応援会派(与党)が多数のため市の提案が通りやすい
●もっと議論をして多様な市民の声を反映した議会に
だから、無所属・市民派の野村羊子が必要！

説明会など



●市の職員がどのように伝えているのか(情報開示、決定プロセス)
●市民の人たちの反応は?(声をひろう、フィードバックをみる)

市民活動フィールド



●共に活動

視察・研修

市外フィールド



●視察、研修、研究会で新しい視点や提案を三鷹市に持ち帰る
●市外のネットワークづくり、協力体制
●情報収集

市民目線・例えば… まだまにあう！どんぐり山を存続させよう！

特別養護老人ホーム(以下、特養)どんぐり山の廃止条例が可決され、議論となっています。市の主張に比べ、**市民目線**だとこのように問題が見えてきます。



市政の言い分(運営目線)	野村の意見(市民・利用者目線)
施設の老朽化	▶ 建物は築22年で老朽化とはいえません。まだ使える施設なのに閉鎖後の利用方法は未定。
赤字が出る	▶ 市民が必要な福祉は市が負担して運営すべき。予算配分の問題で理由にならない。その上、赤字に含まれている大規模修繕はほぼ終わり、経費は減少する。
市内に新たな特養が2つできる	▶ 民間の新設特養は個室ユニット型で利用料金が倍以上。低所得者は入所できない。緊急保護などの公的責任を担う施設がなくなる。
市内ではデイサービスは足りているので新たなものは設置しない	▶ デイサービスを変えるのはそう簡単ではない。利用している高齢者とその家族が環境の変化に対する精神的、物理的な負担を負わなくてははいけない

どんぐり山は廃止すべきではない。
これからの超高齢化社会に向けて公的福祉施設は必要です。